

『カラスの教科書』のようなゆるーい語り口調の学芸書がもっと読みたいです。ジャンルは問いませんのでぜひご紹介ください。

『ヘンな日本美術史』山口晃

721/Y24h

山口晃さんはものすごい絵を描く人なんですけど、とてもユーモアにあふれています。日本美術に興味があれば、ぜひ！

岩波書店というと、お堅いイメージの本が多いが、岩波科学ライブラリーには、変わったタイトルの本がある。「犬のこころをよむ」「クモの糸でバイオリン」「ナメクジの言い分」などなど。現在、250冊ほどのシリーズになっている。(kmt)
地階本棚408/lw952

2017年の～

3月22日だ～

